

## 住宅と断熱

## Vol. 2

P

## 第2号のポイント

1. 断熱材とは、熱の移動を遅らせる物体である。
2. 高断熱化するほど住宅の燃費（冷暖房費）は良くなる。
3. 断熱性能を高めることは夏の暑さ対策でもある。

?

## 筆者プロフィール

金井田晃央(かないだあきお)  
 1975年 群馬県生まれ  
 日本大学大学院(建築・構造)を卒業後、スウェーデンへ渡る。  
 スウェーデンで住宅・建材の輸出マネージャーを10年間務める。  
 河本工業の次世代型住宅である“Komoto Hus”(河本ヒュース)の開発メンバーに携わる一人。  
 スウェーデン住宅・建材・家具等の輸入手配を主に担当している。  
 筆者ホームページ：  
<http://mala-gruppen.com>



分厚い断熱材を外壁ブロックへ充填（スウェーデンの住宅工場）

Hejsan！今回は住宅と断熱についてお話しします。

最近では高断熱住宅が常識となっていますが、住宅に使われる断熱材って一体何なのでしょう？断熱材というと、何か毛布のような暖かいもので、住宅を覆うといったイメージがありますね。でも実は、断熱材とは、「熱の移動を遅らせる物体」なのです。つまり、冬であれば、家の中の暖かい熱が外へ逃げるのを遅らせ、夏であれば、外の暑い熱が家の中へ侵入するのを遅らせる役割をしています。

そもそも、断熱材が必要となった理由は、家の中で冷暖房を使うようになったからです。断熱性を高めることで、最小限の冷暖房で室内を保冷・保温することができるだけでなく、結露やカビの発生も抑制し、住宅に使われている木も長持ちさせることができるというわけです。

では、どのくらいの断熱が住宅に必要なか？という、それは、どれだけの省エネを要求するかによります。例えば、スウェーデンでは、外壁の断熱材の厚さは20cm程度が一般的で、高断熱仕様では、30cm～40cmにもなります。高断熱化するほど、住宅の燃費（冷暖房費）が良くなるからです。

ここ館林はそんなに寒くないから……。でも、日本一暑いですよ……。そうです！住宅の断熱を高めると、冬に室内を暖かく保て、夏は涼しく保てるわけです。“Komoto Hus”では、スウェーデンの住宅と同レベルの断熱性能もご用意しています。なぜなら、それがこの夏の暑さに対する私たちの解決方法だからです。次回は、住宅と窓についてお話しします。お楽しみに！

文責 金井田晃央（筆者へのお問い合わせ先：[info@mala-gruppen.com](mailto:info@mala-gruppen.com)）

**Innovation**：イノベーションとは、これまでのもの、仕組みなどに対して、全く新しい考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起すこと。